

広島県無形民俗文化財

比和牛供養田植



2



3

伝統を継承



8



6



7



4



5

5月26日、比和町木屋原にあるグリーンポート吾妻路横の水田で、広島県無形民俗文化財の比和牛供養田植が開催されました。

比和牛供養田植は、信仰・音楽・労働の3要素を含む大掛かりな儀式田植で、約700年前、大山（鳥取県）の社人よりこの地に伝えられた太鼓踊りの技法を起源とし、古式に基づく技法を現代に伝える郷土芸能です。4年に1度行われる伝統行事ですが、新型コロナウイルスの影響により前年中止となったため、今回は8年ぶりに開催されました。

当日は、多くの観客の中、牛による「代かき」や「早乙女」による田植え、「太鼓打ち」などが披露されました。

写真の説明

①④飾り鞍を付けた供養牛による「代かき」。また①は、比和牛供養田植で初めてとなる女性による「追手」（代かきで牛を誘導する人）。②⑧「太鼓打ち」が伯耆大山の社人から伝えられたといわれる技法を披露。③⑦供養田まで歩く「道行」。⑤田植唄の拍子に合わせて田植えをする「早乙女」。⑥神式と仏式による祈祷を受け供養田に入る「入田」。